

〈理科〉 6年

「大田区学習効果測定」結果の分析

- ・今年度の本校における平均正答率は、目標値を上回る結果となった。基礎では、2.6ポイント、活用では、5.9ポイント上回っている。
- ・顕微鏡の使い方や「植物の花のつくりと実」の実験の意味を理解できていない児童がいる。

重点課題

〈知識及び技能〉

- ・顕微鏡の正しい扱い方など、観察・実験の技能の定着化を図る必要がある。
- ・「植物の花のつくりと実」で確かな知識・理解の定着を図ることが課題である。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・問題に対して見通しをもって、多面的に追求していく力を付けていくことが課題である。
- ・「流れる水のはたらき」の実験を生かしながら、自然の事物・現象の性質や働き、相互関係、規則性などに気付き自分の言葉で考察していくことが課題である。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・自ら疑問や課題を立て、実験・観察を通して解決していく学習を構築できるようになることが課題である。

授業改善策

〈知識及び技能〉

- ・実験器具や薬品の扱いについて復習を徹底し、実際に触れる時間を多く設定することで、扱い方を確実に習得させる。
- ・観察・実験の方法を話し合い、条件制御しながら予想や仮説のもとに多面的に追求していく活動を多く取り入れる。
- ・事象とかかわる時間を十分にとり、自分で実験・観察する活動を通して、知識・理解を深める。
- ・問題解決の過程を充実させることで「実感を伴った理解」を図る。特に自ら問題意識をもち見通しをもって観察・実験をする活動を重視していく。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・一つの事象からどんなことが考えられるか、日常生活の中で考えていけるようにする。また、疑問に思ったことを授業の課題として追求していけるようにする。
- ・話し合いの時間をとり、自分の考えと友達のを比較し、考えが深められるようにする。
- ・ノート作りを充実できるように、観察・実験の結果を図や表・グラフなどを使って整理したり、考察を自分の言葉で書いたりして、表現していく力を育成する。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・自然事象や現象の変化を知り、生活と結び付けて考えていけるようにする。日常の中で、自ら疑問や課題を見出せるような環境を整える。また、子どもたちの意見や話し合いの時間を充実させ、見通しをもった学習計画が立てられるようにしていく。
- ・事象と直接関われないものは、インターネットの映像やICT機器を活用し、そこから追究していけるようにする。